

副作用初期症状データベースの構築（第1報）

大沼博子¹、鈴木聡子¹、吉川均¹、宮崎工²、網岡克雄³、佐藤信範⁴、上田志朗⁴
（¹データインデックス（株）、²（株）薬進、³スイショー薬局調剤センター、⁴千葉大大学院薬学研究院）

【目的】

日常の診療及び病院・保険薬局業務の中で、患者様からの副作用初期症状の訴えに遭遇する場面は少なくなく、訴えを聴取した時点での迅速な対応により、不幸な転帰を未然に防ぐことが出来ると考えられる。そこで我々は、医薬品添付文書上の副作用用語を抽出し、それらに患者様が訴える副作用の初期症状に関する表現を結び付け、原因薬剤を推定し迅速に対応することを容易にするためのデータベースを構築したのでここに報告する。

【方法】

副作用用語の抽出：医療用医薬品約 18,000 品目の添付文書をデータベース化し、文中に独自のタグを埋め込み副作用用語を抽出し、抽出した用語を上位・下位語の 2 階層に分類（Access にて作成）。

副作用初期症状患者表現のリンク：抽出した 7,888 の副作用用語中、上位語に分類される 3,652 語を更に重大な副作用欄の用語に絞込み、自覚的症状及び他覚的症状に分類。それら各々の用語に対し、重要かつ高頻度に発現する症状を平易な言葉を用い、127 文字以内で作成。複数表現間は「、」で区切り、各々の初期症状表現毎の切り出しも可能とした。

【結果及び考察】医療の効率化の中にも質の高い医療サービスが望まれ、近年、病院機能評価項目に『患者の権利と安全の確保』が設けられた。特に patient safety management の中核となる副作用情報の提供や安全対策を迅速かつ確実にを行うためには、IT 技術の活用が必須であることから本データベースの有用性は高いと思われる。今後は簡便に利用できるシステムへの搭載を行い、様々な臨床現場での検証を行うと共に、他のデータベースとのリンク展開も検討していきたい。